



# 日本戦略説明会

2026年3月30日

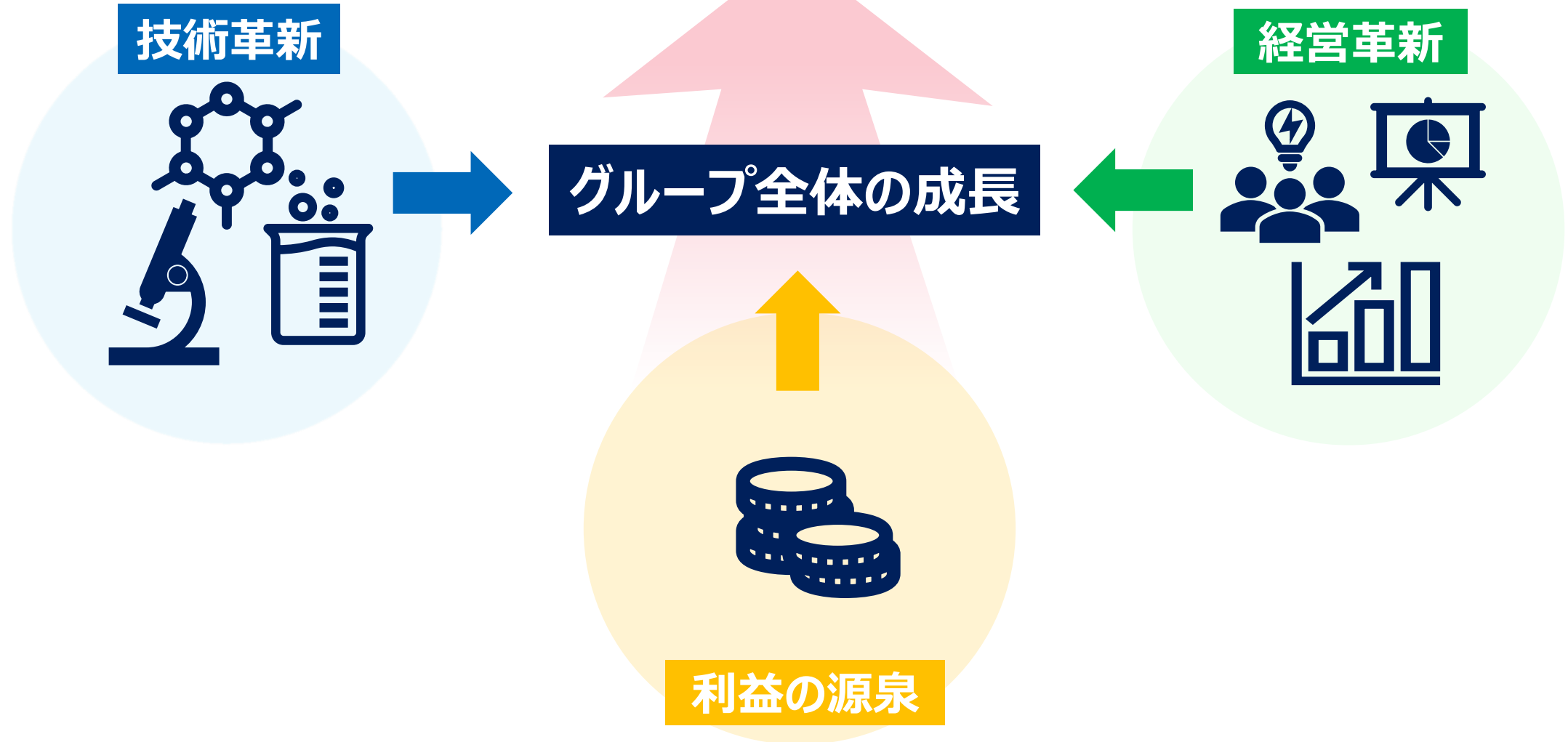
# CONTENTS

1. 日本セグメントの役割
2. 日本発の技術革新
3. 事業紹介
4. 日本発の経営革新

この資料に記載されている業績予想は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれているため、実際の業績が予想数値と異なる可能性があります。

# 1. 日本セグメントの役割

# 日本セグメントの役割

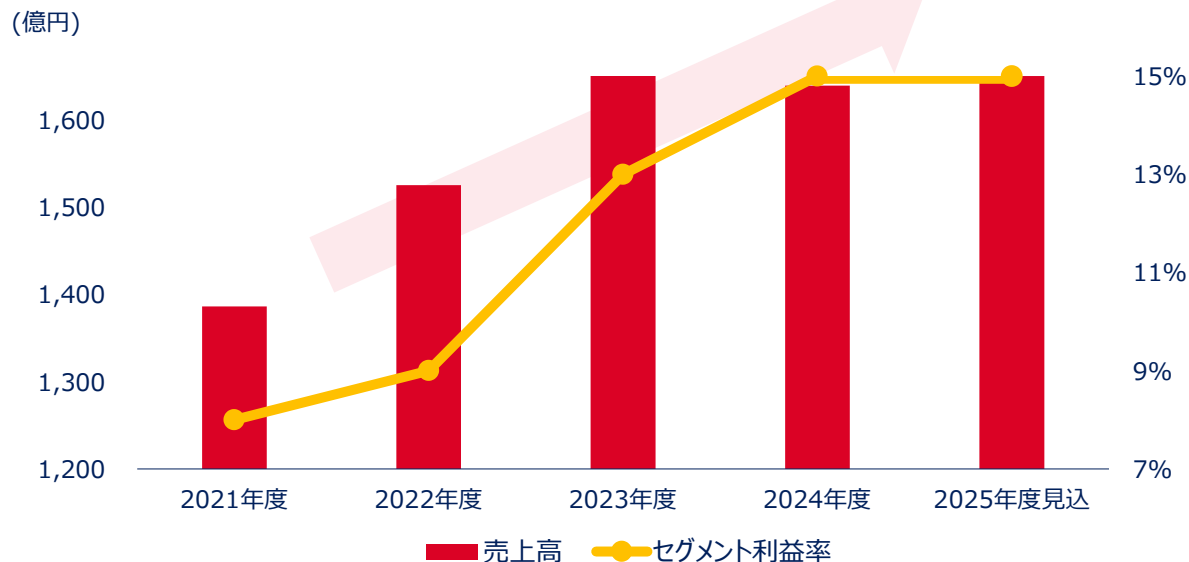


技術を磨き、経営の質を高め、グループ成長を牽引する

塗料で人を幸せにする

# 当社グループにおける日本セグメントの重要性

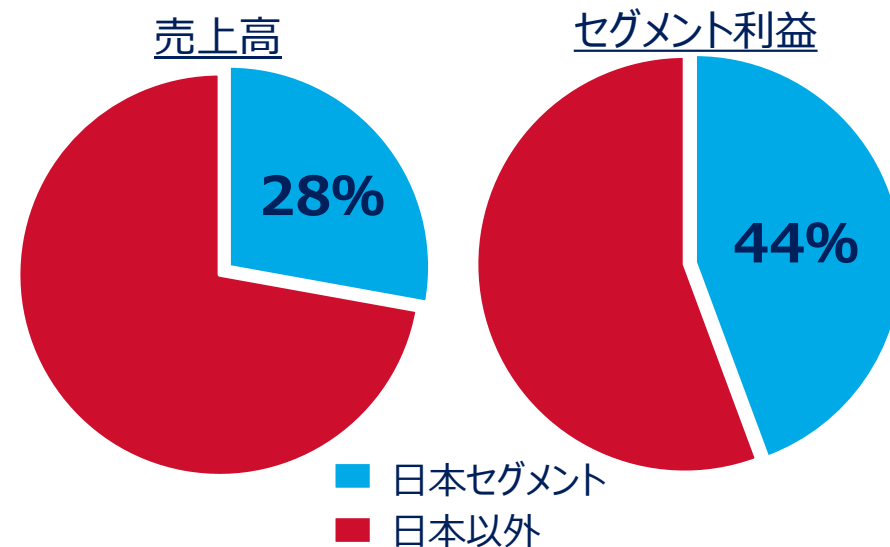
## 日本セグメントの売上・利益率の推移



### <収益性改善の打ち手>

- 原材料費低減
- 商品MIX改善
- 低収益資産の整理
- 固定費圧縮

## 地域別構成比



## CCC(2024年度実績)

日本セグメント	当社グループ
<b>58</b> 日	<b>98</b> 日

自助努力による収益体質の確立

塗料で人を幸せにする

## 2.日本発の技術革新

# 世界トップレベルの技術

顧客ニーズ	主要な要素技術				提供価値
	樹脂合成	分散	粘度制御	弾性制御	
長期耐久	●	●		●	塗膜性能
生産性	●	●	●		塗装作業性
商品力	●	●	●	●	意匠性 機能性

高い技術力で、顧客の課題を価値に変える

# 技術事例①

## 要素技術：分散

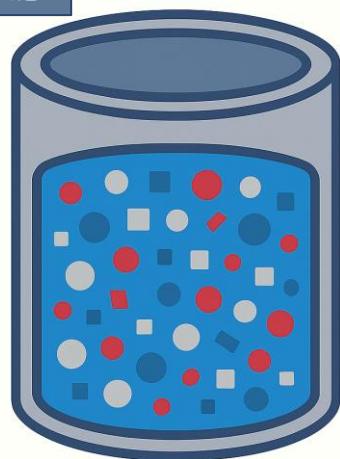
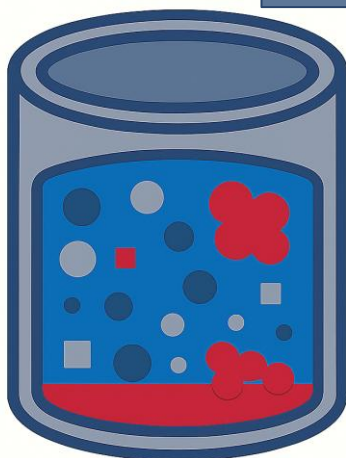
### <悪い分散技術>

顔料が集まり、  
ダマが発生

### <良い分散技術>

ダマにならず、  
均一に分散

容器内の塗料の状態



### [一般的な塗料の構成比重]

樹脂 = 1, 顔料 = 1~7, 溶剤 = 0.8~0.9, 添加剤 = 1  
さまざまな重さの成分を均一に存在させる

## 応用した製品

### ➤ ルビゴール

錆の上から塗れて塗装工程を省力化  
(防錆成分を錆の層に浸透させ、  
腐食電流を抑制する技術は業界初)

### <カギとなる分散技術>

比重差の大きい材料を塗料中に安定  
させる技術

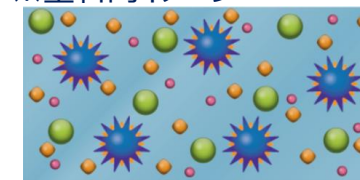
### ➤ リチウムイオン電池用材料

電池性能向上に貢献

### <カギとなる分散技術>

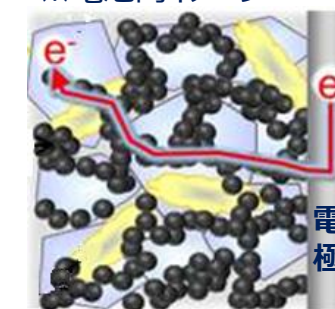
導電性材料を適度にほぐし、粒子同  
士のつながりを制御する技術

※塗料内イメージ



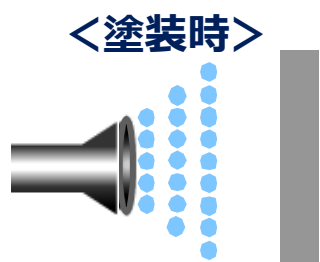
- 超微粒浸透性防錆成分
- 溶出不動態皮膜形成型防錆顔料
- 超高分子エポキシ樹脂
- (官能基+特殊官能基X)硬化剤

※電池内イメージ

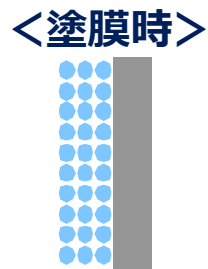


# 技術事例②

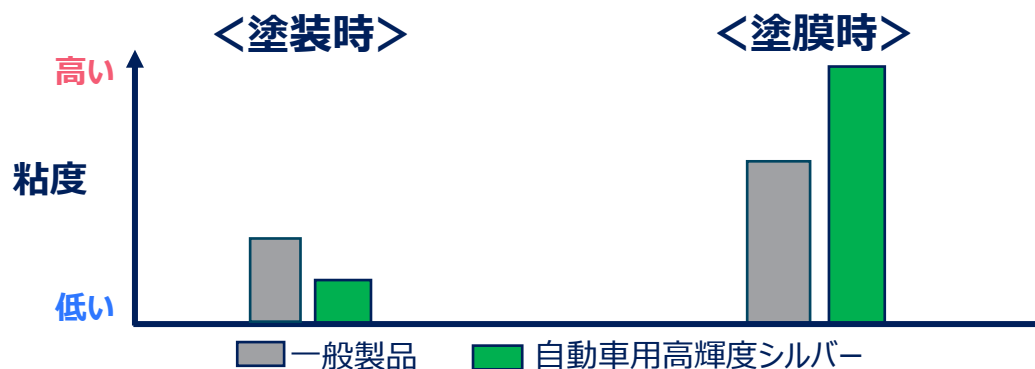
## 要素技術：粘度制御



サラサラ = 粘度が低い  
特徴：  
塗装時にかかる圧力により微粒化



ピタッ = 粘度が高い  
特徴：  
垂れずに均一に塗膜を形成



相反する粘度を一つの塗料で実現

## 応用した製品

### ➤ I-system

世界初の粘度制御技術で、約1 $\mu$ mの膜厚で量産に成功

<カギとなる粘度制御技術>  
水分比率が極めて高い塗料を、塗った瞬間にその場にとどめる技術

### Ex) 金属調シルバー

[通常]

膜厚:15~20 $\mu$ m



[新規]

膜厚：約1 $\mu$ m

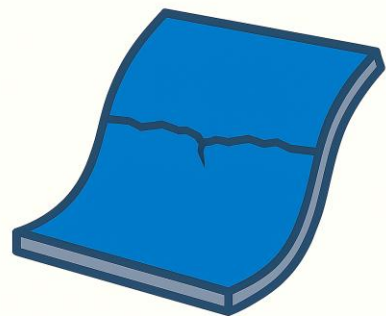


# 技術事例③

## 要素技術：弾性制御

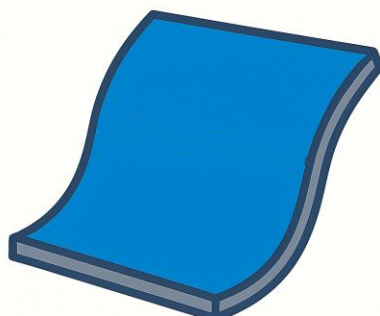
<一般的な塗膜のイメージ>

=板



<当社の技術>

=レザー



塗膜を自由自在に伸び縮みさせる技術

## 応用した製品

### ➤ 次世代フレキシブル太陽光発電パネル保護

柔軟性と高い防湿性能を同時に実現し、次世代技術へ貢献

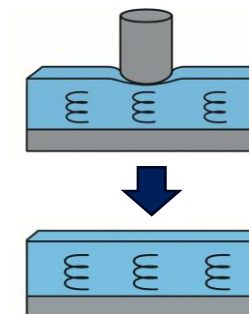
<カギとなる弾性制御技術>  
伸びる塗料で基材に追従させる技術



### ➤ 自己修復型クリアー

柔軟に傷を吸収し、美観と製品寿命を長く保つことができる

<カギとなる弾性制御技術>  
柔らかく、バネのような反発力を持たせる技術



# 日本の技術を世界中の人に届ける

＜今後のグローバルへの拡大余地＞

＜日本発グローバル展開の成功実績＞



＜差別化ポイント＞

## 技術力

- ▶ 高い品質要求への対応

## 品質管理

- ▶ 高品質製品を安定供給

工業分野

防食分野

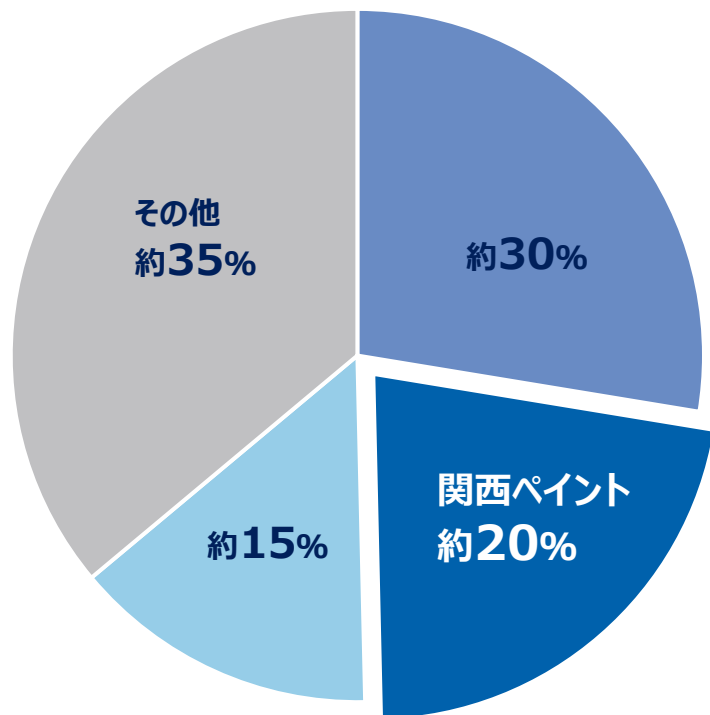
自動車補修  
分野



# 3. 事業紹介

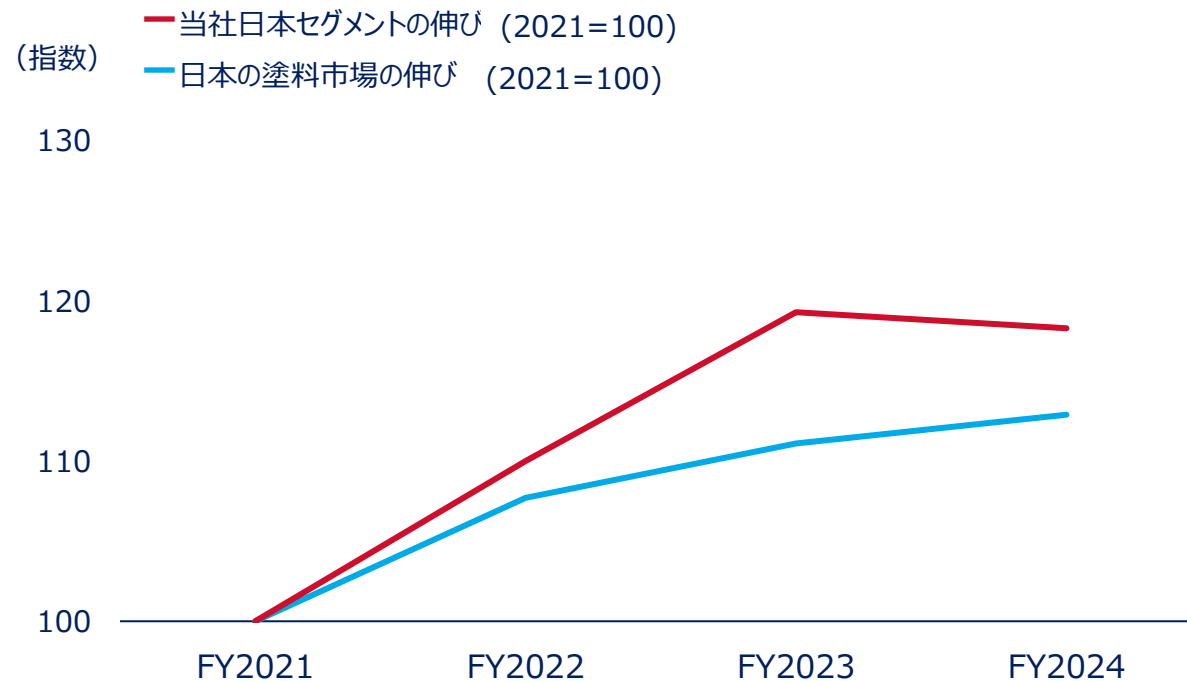
# 日本の塗料市場における当社の立ち位置

## 日本の塗料市場シェア



出典：当社調べ（2024年度各社売上、  
全体は経済産業省「塗料出荷額」統計〔2024年度〕に基づく）

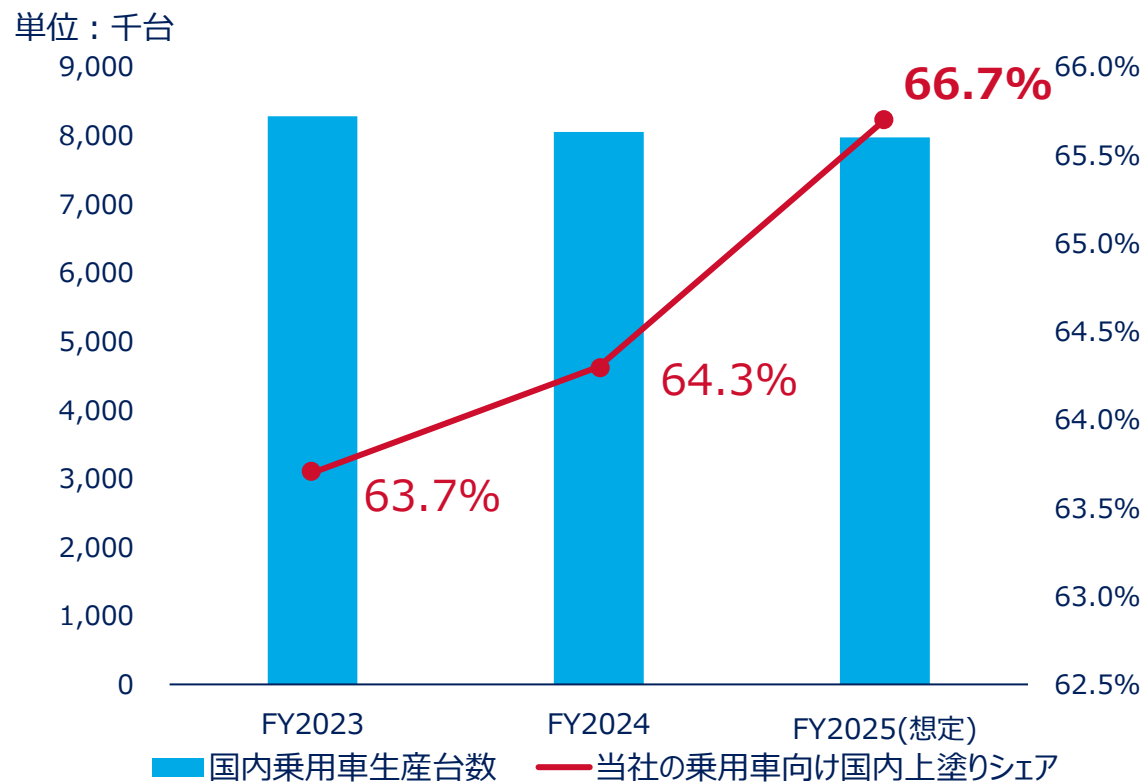
## 日本市場の伸びVS当社の伸び



※当社は日本セグメント売上、市場は経済産業省「塗料出荷額」ベース  
出典：経済産業省「塗料出荷額」統計

# 自動車用塗料

## 国内乗用車生産台数と当社シェア



出典：日本自動車工業会、当社調べ

## 日本からグローバルへ

### シェアNo. 1

- 日本
- インド
- 東南アジア (マレーシア, インドネシア, タイ)

### 持分法関連会社の売上

- 湖南湘江関西(中国)  
売上：約**600**億円
- PPG Kansai Automotive Finishes(欧米)  
売上：約**350**億円

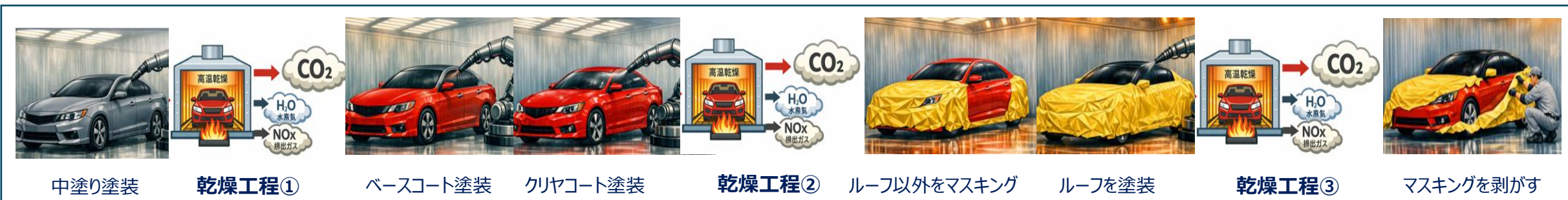
※2024度実績

国内シェアダントトップを維持

マザー拠点として各JVと一丸となり、競争力強化を牽引する

# 世界初、2トーンを乾かさず塗り重ねる工法を実現

<現在のルーフブラック工程の場合>



➤ 各自動車メーカーの車両デザイン戦略として、マルチトーン意匠は人気が高いが、従来工程では生産性・環境負荷が課題

<開発した新工程の場合>



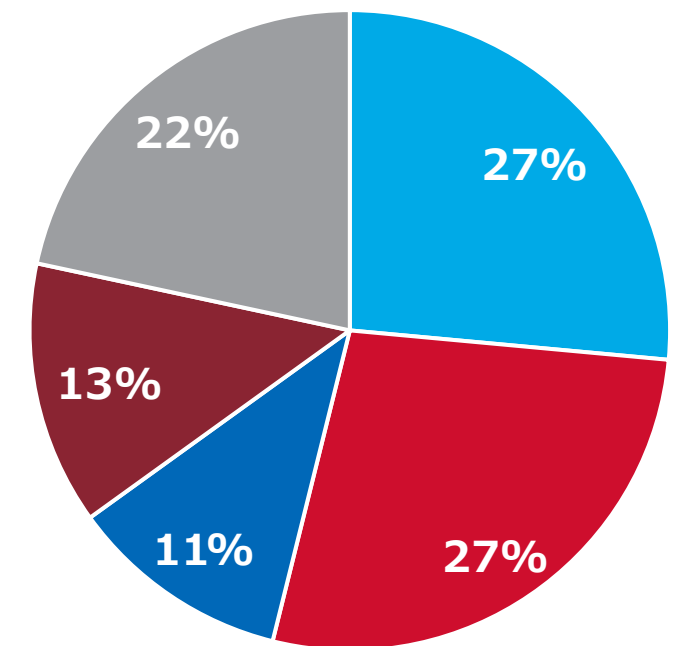
※工程図は説明用にデフォルムしており実工程を忠実に再現したイラストではありません。

➤ 開発した新工程のメリット (工程 & 塗料両面からのコラボレーションにより解消)

- 乾燥工程が3→2回 (排出CO<sub>2</sub>削減、エネルギーコスト削減)
- マスキング面積縮小 (工数削減・コスト削減・廃棄物削減)

# 日本事業部門

## 分野別売上高の割合（FY2024実績）



■ 一般工業 ■ 建築 ■ 防食 ■ 自動車補修 ■ 船舶

※当社日本事業部門における割合

## シェア順位

一般工業	No.2
建築	No.3
防食	No.3
自動車補修	No.1
船舶	No.2

市場シェア：日本事業全体でNo.2のポジション

# 汎用製品紹介

## 建築

ラグゼMUKIシリーズ



### 用途：建築物

高耐久化  
塗り替え回数を削減  
建物の長寿命化  
維持コスト低減

## 防食

ウルティモ



### 用途：主にプラント

濡れた上で塗装可能  
防錆塗料  
工程削減/工期短縮  
設備の長寿命化

## 自動車補修

オール水性システム



### 用途：自動車補修

業界初、有機則フリー  
システムで安心・安全  
な職場環境提供

## 一般工業

粉体塗料

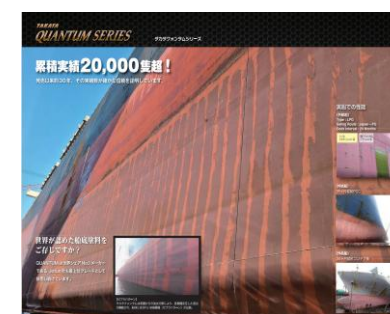


### 用途：配電盤/工作機械/鋼製家具等

粉体新工場稼働  
関西パイント販売へ久  
保孝パイント吸収合併

## 船舶

タカタクオンタムシリーズ



### 用途：船底部

塗膜が自己研磨し海  
洋生物等の付着抑制  
海水抵抗を減らし、燃  
費改善を実現

市場から求められる様々な社会課題の解決に対応し事業競争力を高めていく

# 愛知ステーション



- 場所：愛知県春日井市
- 規模：13,600㎡
- 日程：26年4月3日竣工式  
26年8月本格稼働予定
- 企業：関西ペイント販売  
カンペ商事  
カンペカラーセンター  
カンペ倉庫サービス

中部地区の関西ペイントグループの供給・販売・物流を一体化した拠点を建設し、事業競争力を強化

# 4.日本発の経営革新

# 企業価値を高め続ける経営革新

100年以上積み上げた財産 × レバレッジ



積極的な投資と還元で使いきる

# 資本効率を追求し経営の質を高める

## ROE (一過性除く)

2021年度

8.8%



2024年度

13.1%

## 政策保有株 (連結純資産に対する割合)

2021年度

約16%



2024年度

約4%

## 不動産売却

2021年度~2025年度累計

約430億円

## 営業キャッシュ・フロー

17中計

約1,500億円



18中計(計画)

約2,200億円

## 自社株買い総額

2021年度~2024年度累計

約1,800億円

## 年間配当額 (一株当たり)

2021年度

30円



2025年度(計画)

110円

## 成長投資

16中計

約400億円



18中計(計画)

約1,400億円

## ROIC-WACCスプレッド

2021年度

0.2%



2024年度

4.4%

## 賃金水準の推移 (2021年の賃金水準を100とした指数)

2021年度~2026年度

約+27%

# 統合報告書の発刊



2026年4月発刊予定 ご期待ください

# 塗料で人を幸せにする